

アクトをするのは自分である

今回の英語研修にあたって自分が一番に感じたことは英語の語学力の向上ではなく、コミュニケーション力、そして相手の言動にいかに対応できるかであると思った。3 週間と短い期間であったが本当にたくさんの経験をした。英語力の向上なんてものは正直その本人がどう考えるか、どう努力するか、どう取り組むかで済む話である。それに、真剣に耳を傾けていれば今までの学校で習ってきた英語で理解できる訳で、思いの外聞き取れなくなる英語であった。正直今の情報社会の中で英語圏の国に行き、生の英語で勉強する必要さえ疑問に思う。しかし、こう思う前の自分が今回この研修に応募した理由は簡単に「オーストラリアに行ける。」「暮らしていれば英語も勉強できる。」「観光できる。」と一般的な旅行感覚の考えであった。だがオーストラリアに到着してたったの 3 日程過ぎていて感じることは山のようにあった。「自分からアクトを起こさなくては何も変わらない。」こう感じたのはホームステイ先の環境によって個人差があるだろう。自分の場合はホストファミリーのホームステイ慣れが半端なかったからであった。しかし研修に来ている、という根本から考えれば当然のこと、話しかけられるのを待つのではなく自分から話しかけることを望まれる。というのは確かなことである。そうしなければ沈黙になってしまうことや、ホストファミリー同士の会話を聞くのみになってしまう、ということも少なくはないと思う。

自分の実体験からタイトル通りに思うようになったのは、上述のホストファミリーとの食事の時の会話の少なさであった。ステイ先によってここはかなり変わってくるが、望まれるべきは自分から話しかけることである。そしてはっきりと自信はなくてもはっきりと伝えることが重要である。ここで言う「伝える」ということは、はっきりと英語を言うことである。頭で考えて、頭で確かめて、不安感を持って話すのではなく「伝える!!」という心を持ってはっきりとはなすべきである。また、日本人とは違い向こうの人はかなりのフレンドリーな心を持っていて知らない人からよく話しかけられたりする。お昼ご飯でお弁当を食べていると「Did you make lunch?」と急に話しかけられ、バスに乗っている最中に困惑状態になっているときに話しかけて手助けしてくれるなど、不意に話しかけられるため常に気を抜けない状態であった。その分とても親切で温厚な性格の人が多い。ということも分かった。そしてなにより強く思ったのは ELICOS クラスでの英語勉強のときであった。様々な国から来ている人々が居て日本みたいに授業中静かにしているわけではない、延々とべらべらとしゃべる人もいれば自分たちにながなが話しかけてくる人もいて気を抜

けない2時間である。授業内容は日本並で簡単であった。簡単な文法の勉強だが、授業すべてが英語で素早く進行していたため、なにがなんだかわからない状態である。それに皆読むスピードが速いためついていけないことも多々あった。そこは努力で乗り切るしかない！！そしてグループで議論するときに聞いているだけではだめである。相手は自分の意見も欲しいからである。黙っていれば別に「静かな日本人であるのか。」と解釈され以降あまり話しかけてこなくなることもある（これは実体験の1つである。後半から話すようになったため誤解は解けたが）。なによりも自分から発信することが必要なのである。

向こうに行って最も意識してほしいのは、アクトを起こすのは自分である。ということをも1番に思って活動してほしい。そうすれば自然と語学力も身につくだろう。日本でもできるのでは？と思うかもしれないが羞恥心がある人が大多数だろう。それを向こうに行けばすでに周りがみんなやっている「郷に入っては郷に従え」。また、違う価値観や世界がみられると思う。語学力の向上、とか、観光、と考えている人はついでにこういう意識もしてほしい。まったく異なる、とまでは行かないが、日本とは違う世界観や人感を味わうことができるだろう。



ここからは趣向をガッと変えて自分のオーストラリアの体験に。

自分のホームステイ先には wi-fi の環境がなかった。初日はネット環境なしで2週間弱はやっていけない、と思っていたら、学校、シティー、大きめの町では wi-fi が飛んでいてそ

こでカバー仕切れないが後半はネット環境なくとも苦労はしなかった。ただし毎日夜が暇だったが。我が家のファミリーは9時には就寝していたようで、やることのない3、4時間。日々暇をしているか勉強しているかであった。たまに夜遊びなどをしたり... と、暇な中でもやることを見つけて凌いだ。ネットのない環境なんて日本では味わうことが確実にできないのでこれはこれでいい経験になったと思う。大学生でもネット環境がなくても十分にやっていけることが判明した。しかし旅行前にネット関連は十分に調べておいて損はない。いざ、の時のためキャリアの設定や、ローミングの設定は熟知しておいたほうが確実に安全である。

オーストラリアは想像を越して物価が高かった。水なんてもので\$3.4（日本円で340）も払わされた。向こうの人は家の水を汲んで冷やして持ってくるのがふつうであったようだ。ほかのジュースにおいても水ほどではないが高い。ご飯も高い。お菓子も高い、し意味の分からないものも多い。交通費だけでもばかにならなかった。毎日のようにバスに乗りスマートライダーなるものにお金をチャージして。乗り方も難しいし、量も少ないし。おそらく総額で2万は使ったような、使わなかったような。唯一、衣類関連は日本と同じ程度の価格であった。また、STTUSY等のブランド物は安く、VANSはあほみたいに高かった印象があります。オーストラリアの人はショーツの率が物凄く多くて郷に従ったのに一緒にいった奴らにがやがやと多く言われた。やはり、オーストラリアに行っただのであればオーストラリアっぽい服がいいでしょ！と思ったのに。皆さんもショーツにしてください。

お金について言えば、現金は結構持って行ったほうがいい。おおよそ5万円分ぐらい。1番はカードを持っていくこと。どこのカードがお勧めで、とかは、自分はカードを持っていかなかったのでよくわからないのですが。なんらかの事情でカード持っていけないなら確実にTC（トラベラーズチェック）はやめたほうがいいです。とりあえずTCはお勧めできません。現金に換える場所を見つけるのが大変（パースって、なかなか替えられる所が少ないのです）。ですし、銀行員は日本語が話せるわけでもなく、「講座を作ってそこに現金を入れますか？」的なことを言ってきて優しくない英語でペラペラと話すので訳が分からず。なんとかするにはなんとかあったのですが、本当にTCを持って行って苦労はしました。普通に考えて銀行は平日の9:00~15.6:00と、考えたら学校があるので行けないのは確実。そこに気付かせませんでした。カードを持っていかない、いけない。という方は全部現金で持って行くしかないですね。最初にスマートライダーを作るときにお金を入れるのですが、そんなものはすぐ無くなってしまいます。交通費は本当に高いですから。自分の場合は2万円も行っていないと思いますがそれぐらいは使った感覚です。想像以上の物価の高さ！想像以上の交通費！予定外のお買いもの！何があるかわからないですからね。現金は十分に持って行ったほうが行動しやすいです。

日焼け対策は本当に必要です。体育会系だから焼きたいって日焼け止めを塗らなくて良いなんてあほですよ。特にロットネスト島等の出かけるときは特に。焼きたいなら、半そで半ズボンで学校行っていれば必然と黒くなります。海の際は日焼け止め着けないと皮膚

が痛くてその晩は寝られない、とか、寝られる、とか。本当に大変そうでした。そして日差しが本当に強い！！ので、サングラスは必須でした。かけてないと頭が痛くなることもあるので。そして、風通しの良いパーカー等持って行った方がお勧めです。自分の場合はセーターで済ましたけど。本当に日差しは当たらないし、風通しは良いし、風が吹いているか、歩いていれば本当に暑くなく乾燥しているので汗をかくこともなく快適に過ごせます。

水不足ってどのくらいの水不足か気になるところ（と、思っていたのは自分だけかも）。でも散々水不足を強調されて、本当にないんだなって思ってウェットティッシュとかドライシャンプーとかお湯すらわかせないのか、とか勝手な想像を膨らました結果、そんなことない。手は洗える。手だけじゃない顔も。お風呂も入れる。そんなに洗浄に力を入れてく心配はない。洗えます。飲めます。

実際に行ってみてこんな話聞いてない！！こんな事が起きるなんて！！って、思うことは行ってからもたくさん起きます。何が起きても慌てないでください。パスポートがあればなんとかなります。パスポートといえば、パスポートを普段持ち歩くことを忘れないでください。それはあなたの身分を証明するものになります。持ち歩いていたらどこかで失くしちゃう？？失くさなければいいのです。もしも、空き巣があつたらどうする！！って、話なのです。の、前に旅行者です。身分を証明できなくてどうする！！絶対にパスポートは肌身離さず持つこと。なにが起きても何とかはなるので。皆さん楽しんできてくださいね。



『perth city の広場』